

07 設計演習ⅢB 面構造によるメモリアル空間

[担当教員]

光嶋裕介（光嶋裕介建築設計事務所）

竹口健太郎（アルファヴィル一級建築士事務所）

遠藤秀平（教授）

[Teaching Assistant]

上山貴之（A68） 藤原比呂（A68）

開講年次：学部3年生第2クォーター

■課題主旨

メモリアル空間を（面状の構造により）計画する（面状の構造とは柱や梁による線材の架構ではなく、壁面／床面／屋根面の連続により構造躯体として成立するものを言う）。構造計画に関しては厳密な構造計算による根拠は求めないが、モデル検討及び構造力学的見地に立った基本的な考察を必要条件とする。この構造体を構成する材料は石・コンクリート・鉄・ガラス等一般的に流通するものとし、社会的な合意を得られるコストを前提とすること。また、平面計画や建築造形において形態的メタファーによる合意を目的とせず、計画する環境（場・空間）に対して身体的な関心と理解を探究すること。個人を象徴する空間を熟慮し、そこに必要な空間と場の特殊性を構造・構成・構築概念を手がかりに物理的提案として創出する。

■概要

各自が社会的実績を勘案し顕彰に値すると判断する人物を選択、その個人のためのメモリアル空間を設計する。敷地の選定においては、選択の必然性を前提とすること。その他必要空間を設定し理想的な外部環境・ランドスケープを含めてのメモリアル空間を提案すること。延床面積は2,000平米程度とする。

■敷地

各自設定。設定した人物にふさわしい敷地を選ぶこと。

■提出物

A1図面3～5枚程度、完成モデル1:100（またはアニメーション）、必要図面は各自設定し、第三者に十分な理解を得られることを目的とする。

■講評会の様子



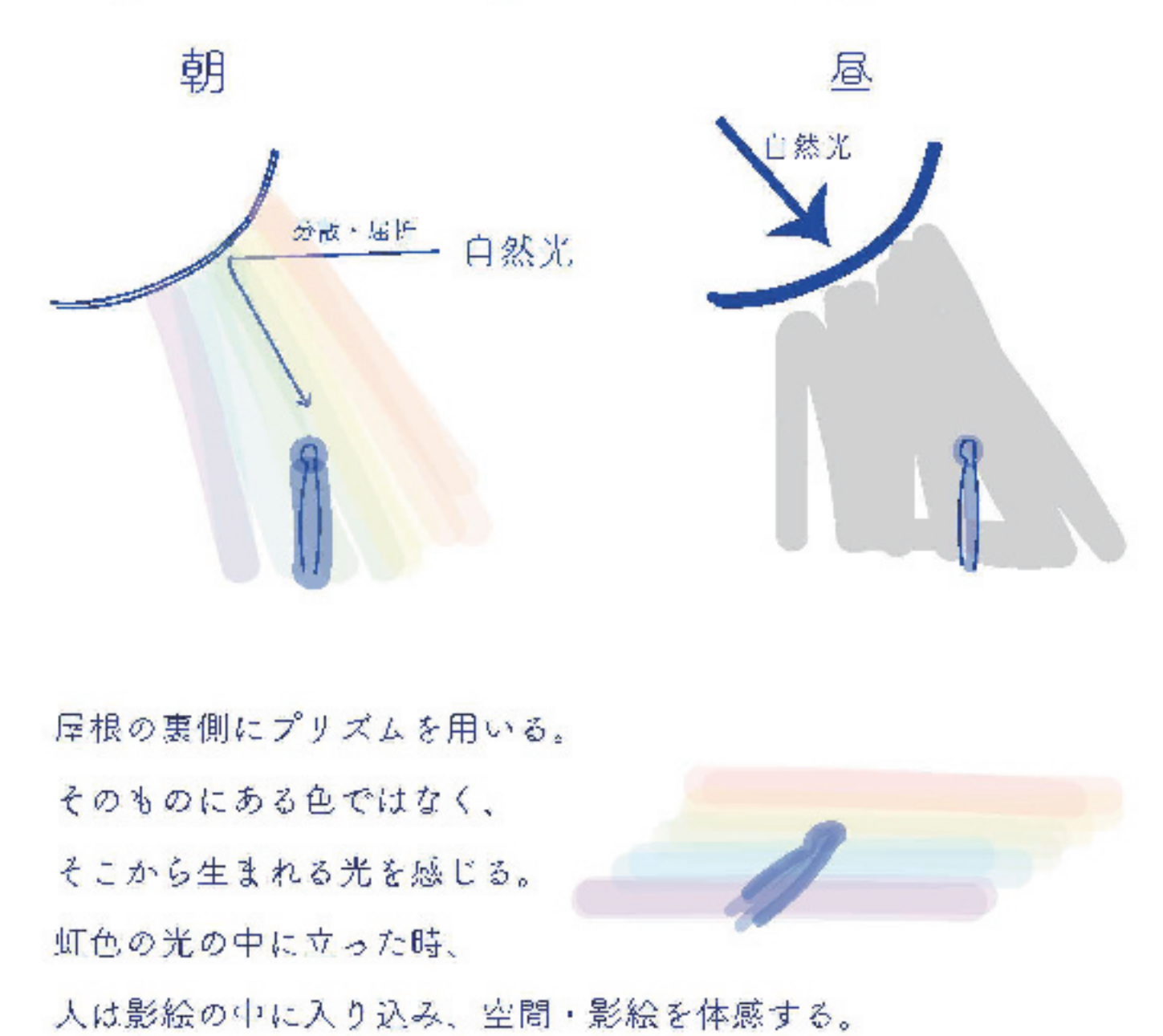
ひかりとかげに色をみる

奥村紗帆

影絵を通して人々を楽しませ、訴えかけてきた藤城清治のメモリアル空間。太陽の光・海の反射・ビルや自分の影など、日常の景色が集まり作りあげられた特別な空間のなかで、私達は自らが影絵の中に入り込んだように、彼が見ていた影絵を体感する。



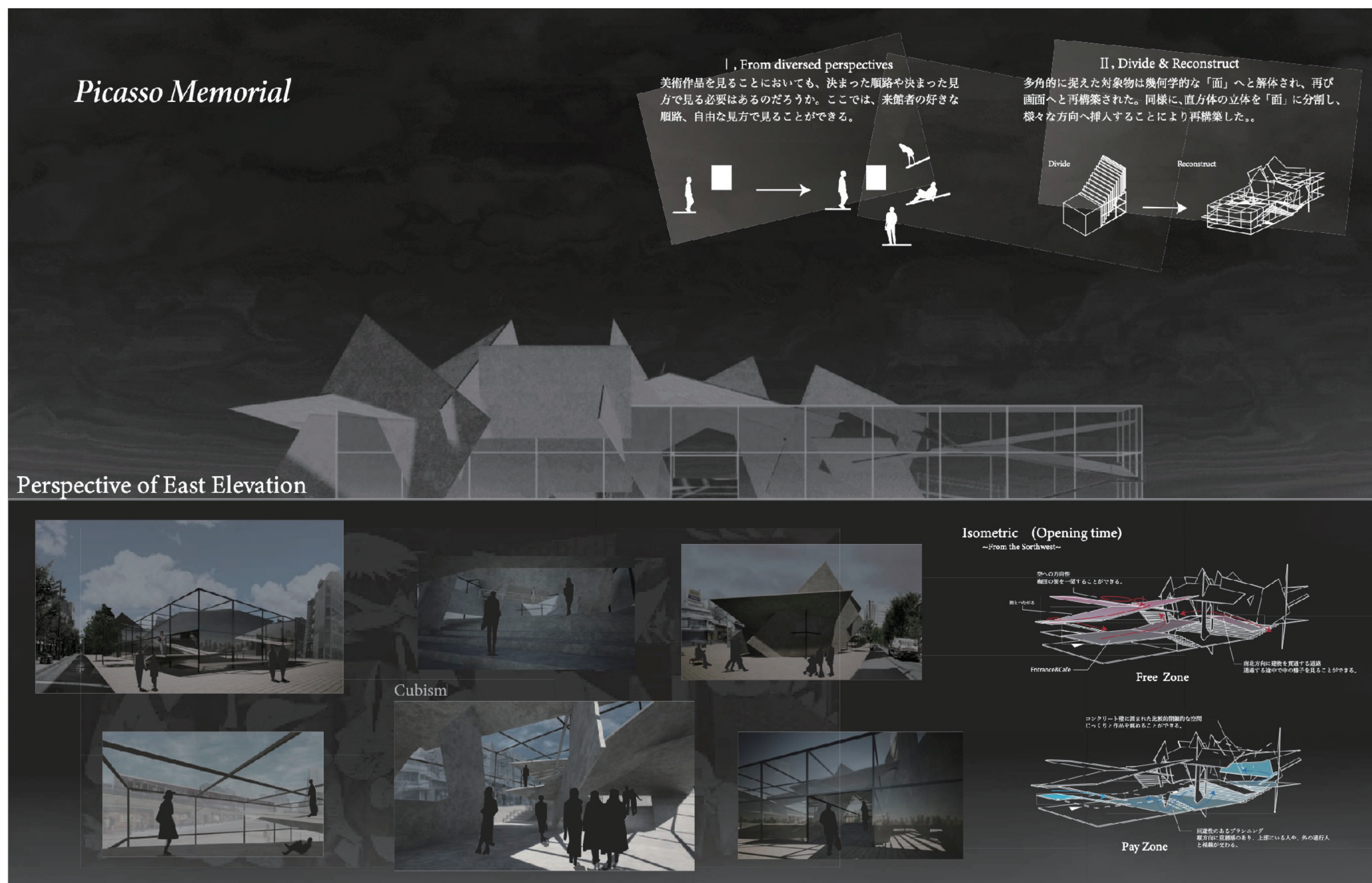
プリズムによる、色づく空間



Picasso Memorial

二宮幸大

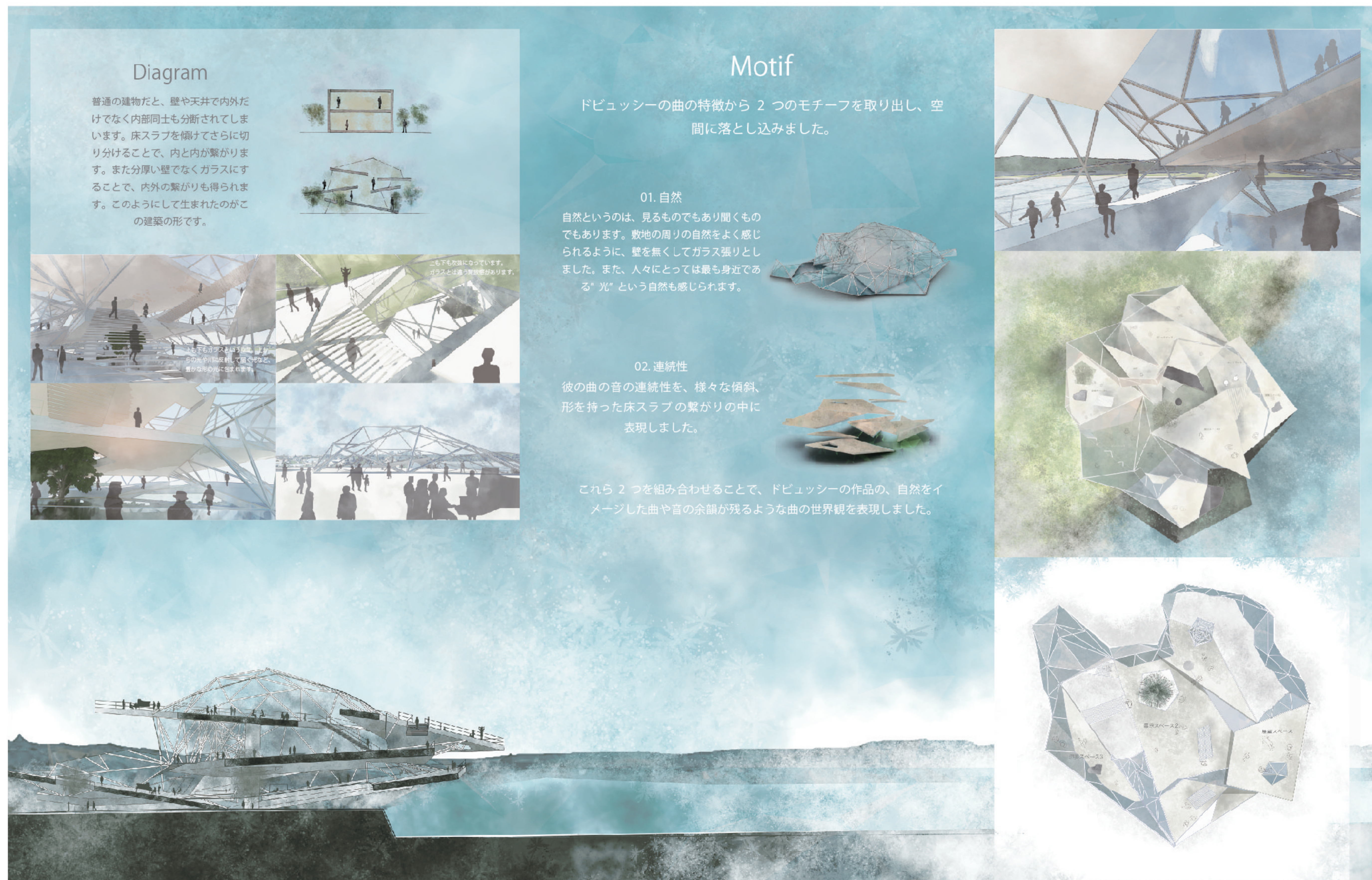
20世紀を代表する芸術家である、パブロ・ピカソにまつわるメモリアル空間を設計する。彼の用いた技法の一つである「キュビズム」を建築に翻訳する。動的な空間とは何か。展示空間として均質・均等な空間が正しいのか考えていく。



La Lumière

木崎理沙

作曲家ドビュッシーの曲の特徴から2つのモチーフ「自然」「連続性」を取り出し、空間に落とし込んだ。豊かな自然に囲まれて過ごしたドビュッシーの見た景色が表現された曲の世界観を、音を聞き、光を感じながら体験できるミュージアムを提案する。



遊興スペクタクル

道免尚子

歌手・椎名林檎の個性と来歴を3エリアで示すメモリアル施設を設計した。鬱屈したデビュー期から世間に大きく開いていった彼女の作品の精神性の変遷を、北に開いていくトラス屋根による空間で表現し、彼女の世界観にまつわる体験型の展示を各所に配置した。



翳に耽る

西村涼

「軒を深く、壁を暗く、見えすぎるものを闇に押し込め、無用の装飾を剥ぎ取ってみたい。」(『陰翳礼賛』) 耽美派の『妖しく奔放な面』を表現するとともに、谷崎が遺そうとした「日本人特有の翳や淡い明るさへの感覚」を体感するメモリアル空間を提案する。

